

◎近年、モモの若木で発生している枯死症の原因と対策は現在調査中ですが、枯死した樹には土壌病害である「ならたけ病」「ならたけもどき病」や「白紋羽病」が原因の場合も多くみられます。

○地上部の症状は類似していますが原因は異なります。以下のフロー「観察①～③」をたどることで簡易な分類ができます。

分類結果と対策

観察① ひこばえ

枯死した若木の根元から「ひこばえ」が生えている。



あり

地下部は健全で、台木部分に褐変などの異常は見られない。

観察② 台木と穂木の境界

台木と穂木の境界部を深めに削ると地上部まで白い菌糸膜が張り付き「キノコ臭」がする。キノコが発生する場合もある。



あり

観察③ 根

①初期症状：根の表面には白～灰白色の菌糸束がみえる。  
②後期症状：表面の菌糸は消失。皮下に白い扇状の菌糸膜がみえる。根が腐敗し、ポキッと折れる。

①初期症状



②後期症状



あり

枯死症の疑い

枯死症が発生した樹では、同時に「胴枯病」の感染も多く認められている。苗木への伝染を避けるため、伐採した樹や枯死した樹は放置せず、圃場外に持ち出し処分する。  
(欄外の注意事項を参照)

ならたけ病・ならたけもどき病

- ①病樹はすみやかに抜根する。
- ②罹病根はていねいに取り除く  
(現在、登録薬剤はない。)

白紋羽病

- ①樹勢を健全に保つ
- ②粗大有機物を避け、よく腐熟した有機物を用いる。
- ③被害根はていねいに除去し、健全な苗木を植える。
- ④薬剤処理・土壌消毒 (軽症樹を対象)  
10～3月：フロンサイドSC (500倍液)  
植付前：トップジンM水和剤 (500倍液)  
発芽前：フジワン粒剤 (3kg/樹)  
「病害虫防除基準・農薬適正使用指針」を参照の上登録内容を遵守すること。

その他の原因

排水不良による根の障害など

「ひこばえ」は生えていない。



なし

なし

なし

注意事項：枯死樹や伐採樹の適正な処分について

枯死樹や伐採樹でも繁殖し、そこから伝搬する病気もある。栽培環境を衛生に保つことが重要。

右図：若木の側に放置された伐採樹。伝染源になる可能性がある。

